



日本共産党市会議員

2018年10月18日

庄本けんじ

携帯 090-6665-9401

議員控え室 0798-35-3368

活動ニュース

9月議会(8月31日~10月3日)

9月定例会が8月31日から10月3日までおこなわれました。9月定例会では、法の改定に伴う条例の制定、補正予算などの諸議案の審議、くわえて、9月定例議会では前年度の決算審査があります。また、今議会では夏の豪雨、台風による被害、熱中症対策などに関する問題にも注目が寄せられた議会でした。

学校の体育館にエアコン設置を

一つは、台風や豪雨の際の避難場所となる学校の体育館へのエアコン設置を要求する意見が多数出されました。日本共産党市会議員団は、猛暑対策について8月1日に市長と教育長に申し入れをした際、その一つの項目に、学校の体育館へのエアコン設置を求めています。9月議会でも学校体育館へのエアコン設置の必要性和緊急性を指摘して、早期設置を求めました。

中央体育館の整備は住民参加で

もう一つは、概算総事業費147億円の中央体育館建て替え・運動公園整備の問題です。何人かの議員から、計画の見直しを含め、事業の進め方について意見や要望が出されました。日本共産党西宮市会議員団は、4月の市長選挙直後におこなった市長あての申し入れで、住民不在の無駄遣いにならないよう、いまの計画を強引に進めるのではなく、一度たちどまって計画を見直すことを求めています。当初計画では5000人以上の観覧席を設けるとしていましたが、その計画は変更され、固定席2500人程度と修正されています。市民のための体育館・運動公園ですから、住民参加ですすめることを強く求めています。

昨年(2017年)度の決算は43億円の黒字



基金残高359億円、借金は震災前の水準に



前年度の決算認定の件では、日本共産党西宮市会議員団は5つの問題点を指摘して反対しました。第一の問題点は、前市長の政治姿勢の問題として無駄な公共事業に手をつけようとしていること。教育委員会跡地に96億円で12階建ての第二庁舎を建設する計画、

また、総額147億円をかけて整備しようとする中央体育館の建て替えを中心とした中央運動公園整備計画。第二の問題は、UE借り上げ復興住宅入居者の追い出し問題。第三は、マイナンバー制度の拡大と推進。第四は、介護保険特別会計について、国の制度改悪に合わせた介護サービスの縮小削減。第五に、食肉センターへの税金投入の特別会計です。

あわせて、決算に関連して、保育所の待機児童対策がまったく追いついていないこと、西宮浜における小中一貫校の2020年4月開校に向けた検討が市民不在となっていること、そのほかに、国民健康保険料の負担軽減、生活困窮者への支援強化、多発する災害に対する対策の抜本的な見直しなどについて、問題点を指摘したうえで意見・要望をのべました。

昨年（2017年）度の決算審査 教育こども分科会 市民から集めた税金は市民のために！ 保育所の待機児童なくしてほしい！西宮浜の小中一貫校どうなる？

9月議会では、2017年度の決算について審査を行います。決算の概要が市民向けにも発表され、市のホームページに掲載されています。2017年度の黒字額は43億3千5百万円です。39年連続の黒字です。そのため、西宮の基金は年々増えて、いまでは、基金残高は総額約360億円にもなり、そのうちの自由に使える基金残高は330億円です。ため込みすぎといえます。住民の切実な願いは渦巻いています。市民から集めた税金は、切実・緊急の要求実現を優先して使うべきです。

決算審査は、5つの分科会に分かれて行います。私は、教育こども分科会を担当し、教育委員会、こども支援局所管分を審査しました。



保育所の待機児童対策は緊急の課題



ことしの4月1日、保育所に申し込んでも保育所に入れなかった子どもは828人でした。前年度は830人。事態は深刻です。「保育所に落ちた子ども」たちのなかには、シングルマザーの家庭の子ども、43人も含まれています。

西宮市は、2019年度までの3年間で、保育所の定員を1500人増やすとして、計画を進めてきました。しかし、目標達成の見通しが立たないまま、計画期限となる2019年度末を迎えようとしています。

市は、その後どうするのかという問題提起に対して、国の「無償化」なるものの影響がどうなるのかを見極めるとして、来年度以降の計画をしばらく持つことなく、様子を見るとの態度です。事態は、そんなことを言っている場合ではありません。待機児童の深刻な事態を受け止めて、抜本的な対策を打ち出すべきです。保育所の待機児童対策は待ったなしの緊急課題です。

西宮浜に小中一貫校を開設(2020年4月)

どんな学校になるのか具体的なことは何も明らかにしないまま計画推進
全市民的議論をして、教職員や専門家の意見を十分に聞いて推進すべきです

西宮市と教育委員会は、西宮浜に小中一貫校をつくることを公表しました。2020年4月開校をめざし、市民が知らないところで、急ピッチに準備が進められはじめています。「小中一貫校って何？」ほとんどの人が知らないことです。

西宮浜で小中一貫校を2020年4月に開校するということについて、西宮市が最初に表明したのは石井市長誕生直後に開かれた6月議会においてでした。

2年後に開校するという事は示されましたが、具体的な内容は何も公表されていません。新しくできる小中学校がどのような形で一貫化されるのか、学校施設や校舎の使い方がどうなるのか、学校区が変更されることになるがどこまで広げられるのか、などなど、具体的なことについては、いろいろ尋ねても「まだ決まっていない」と繰り返すだけです。

小中一貫校の設置は、西宮の公教育のあり方のそのものに大きな影響を与えかねない問題です。それだけに、全市民的に、また、教育関係者の意見をひろく聴取しながら、具体化すべきです

